



クラウドファンディングサイト「夢チューブ」を地域活性のツールに

桑名市・百五銀行・中日新聞社 地域を盛り上げる連携協定を締結

桑名市と百五銀行、中日新聞社は、「クラウドファンディングによる地域活性化に関する連携協定」を結びました。この協定締結は、桑名市における地方創生および地域経済の活性化を推進させることを目的としており、相互がこれまで以上に連携し、地方創生事業に取り組んでいきます。

「夢チューブ」は、中部エリアの夢を叶える場として、中日新聞社が昨秋に開設しました。地域におけるさまざまな取組に挑戦する人と、それを応援する人とを、インターネットを通じてつないでいます。11月に創立140周年を迎える百五銀行が、市の公民連携窓口のツールの一つとして「夢チューブ」の活用を提案、協定の締結に至りました。

起案の第一弾は、7月28日に開催される「桑名水郷花火大会」。桑名市、桑名市観光協会、中日新聞社が主催するもので、伊勢大橋の完成を記念し、昭和9年に始まった伝統の大会です。花火の打ち上げ数は、直径450mの二尺玉をはじめ、水中スターメインや仕掛け花火など約1万発。約20万人(※)の観客動員数を誇り、桑名の夏の風物詩として地域の人々に親しまれています。(※平成29年度実績)

この花火大会のラストを飾る「空中ナイアガラスターメイン」をより豪勢なものにしようと、「夢チューブ」の活用が決まりました。得られた資金額によってスターメインの玉数を増やします。そのほか、資金の一部を運営費に充て、観光客の安全確保や、環境美化にも役立てます。

協定式では、「クラウドファンディングでいろんな方に応援してもらい、桑名市が元気になってほしい」という伊藤徳宇市長の発言もありました。花火大会以外にも、桑名市と百五銀行は、地域活性化や福祉分野などで複数のプロジェクトを検討しています。今後も「夢チューブ」を活用し、地域貢献に役立てていきます。

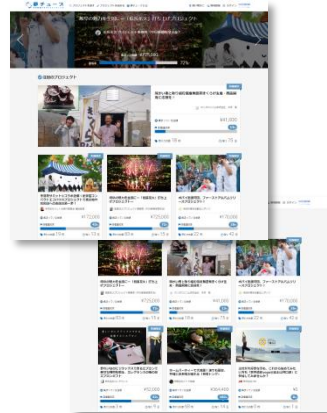
名古屋本社 広告局営業推進部 澤田 直夫



◀協定を結んだ(左から)百五銀行の伊藤歳恭頭取、桑名市の伊藤徳宇市長、中日新聞社三重総局長の石川保典



▲桑名水郷花火大会(平成29年の様子)



▲夢チューブ画面イメージ

ネットで資金 地域活性化
連携協定 桑名市百五銀行 本紙
ネットを介して、クラウドファンディングによる地域活性化を推進させることを目的として、桑名市と百五銀行、中日新聞社が連携協定を結んだ。クラウドファンディングサイト「夢チューブ」を活用し、桑名市と百五銀行は、地域活性化や福祉分野などで複数のプロジェクトを検討しています。今後も「夢チューブ」を活用し、地域貢献に役立てていきます。

協定式では、伊藤徳宇市長は「桑名市が元気になってほしい」という発言もありました。花火大会以外にも、桑名市と百五銀行は、地域活性化や福祉分野などで複数のプロジェクトを検討しています。今後も「夢チューブ」を活用し、地域貢献に役立てていきます。

▲協定を伝える新聞記事
5月15日付(火) 中日新聞朝刊 三重版

夢チューブへのアクセスはこちらから
<https://chunichi-yume.en-jine.com/>

SNSやブログでも情報発信中!

@chunichi.yume

@chunichi_yume

事務局ブログ↓

http://chuplus.jp/blog/list.php?category_id=601